

セ ン チ ュ リ ー CENTURY

- 地域を育む人と企業
- 時代と人をつなぐ スペシャリスト
- 地域で活躍する 職人たち
- 美食探訪 一度行きたいお薦めの逸店
- Dr.訪問 地域医療に貢献する
- 心のふるさと 社寺めぐり

2017. 8
VOL.245

■ 巻頭特集

今改めて重視すべきサイバーセキュリティ



■ cover story

ヘアカット専門店 QB ハウス
NY に欧米進出 1号店をオープン



株式会社 メディクルーズ

【ちゅーりっぷ薬局】 鹿児島県鹿屋市礼元2丁目 3771-8
【クラレ薬局】 鹿児島県鹿屋市寿4丁目 15-15

株式会社 ライドクルーズ

【いちご薬局】 鹿児島県垂水市田神字下福町 3479-3

株式会社 ラージパートナーズシップス

【本社】 鹿児島県鹿屋市寿4丁目 15-15
【鹿児島事務所】 鹿児島県鹿児島市上之園町 18-16

【ラージパートナーズシップス 事業内容】

- ◆ web サイト、web サービスの開発、制作及び運営事業
- ◆ 情報配信事業
- ◆ 求人・採用活動に関するコンサルティング業務
- ◆ 職業安定法に基づく有料職業紹介事業
- ◆ 経営コンサルティング業務
- ◆ 医療機関・薬局・介護施設の新規開業・出店に関する企画、立案、市場調査、情報提供サービス
- ◆ 広告業及び広告代理店業
- ◆ 人材育成のための教育事業、カウンセリング並びにセミナーの企画及び運営業務

業界の将来を見据えながら 薬剤師が協力できる体制を目指し 地域医療の発展に寄与する

鹿児島県鹿屋市内で薬局を運営している「メディクルーズ」は、地域では後発ながら患者本意の姿勢を大切に、順調に成長している企業だ。同社の楠田社長は薬局運営の他、薬剤師の人材紹介を行うなど地域医療の発展に熱い思いをかける人物。本日はダンカン氏が、社長に様々なお話を伺った。

——楠田社長が現在のお仕事に就かれるまでの経緯からお聞かせ下さい。

私は八代にわたって漁業を営んできた家系の生まれで、豪快な両親のもとで育ちました。大学は薬学部に入り国家資格を取得したのですが、家業に対する思いもあったので、卒業後両親に「家業を継ぎたい」と話したんです。父は少し嬉しそうな顔をしました。母がカンカンになって怒りましたね（苦笑）。「国家資格まで取ったんだからその仕事をしな。中途半端なことをするな」と言うんです。私としては真剣に考えての相談で、決して中途半端な気持ちではなかったのですが、母の言葉で改めて将来について考えることができました。そして薬剤師として歩むことにし、その中で独立のきっかけが訪れました。

——お母様の叱咤激励が決め手になったのですね。独立のきっかけはどんなことですか？

人伝に、「店を売りたいと言っている人がいる」という噂を聞いたんです。そこで、そのお店に話を伺いに行ってみたのですが、情報に間違いがあったのか「売りたいなんて言っていない」と、追い返されてしまいました。不確かな情報をもとに訪問したのは失礼だったと反省し、後日謝罪に行ったんですね。すると、「君の人はよく分かった」と私を評価して下さい、店を譲って下さることになったんですよ。それが「ちゅーりっぷ薬局」なんです。それまでは家業のことが少し気になっていましたが、それを機に改めてこの道一本で進む覚悟を決めました。

——ご縁があったのでしょうか。そうして経営者となって、それまでと違う大変さがあったでしょう。

ええ。経営に関する知識がなかったのですね。家で薬を売っていた母にお願いして手伝ってもらうなどしていただきました。ただありがたいことに、もともと外



●ゲストインタビュー：ダンカン (タレント)



「地域医療の在り方について真剣に語る楠田社長の様子から、実に熱意に溢れた誠実な方だと思いました。薬局に薬を買いに来る方は体調を崩されていますから、不安な気持ちの人が多くと思いますが、社長のように誠実な方が運営される薬局であれば安心するでしょうね。そうした思いはきっと地域の人にも伝わりますし、是非より良い医療を実現させて下さい」



楠田 大樹

代表取締役

鹿児島県出身。八代続く漁師の家系の次男として生まれる。福岡県の大学で薬学を学び、薬剤師の資格を取得した。卒業後、一度は家業を継ごうと思うも母親の言葉で薬剤師の道を進むことを決心した。「ちゅーりっぷ薬局」の経営を任せられるようになってからは様々な縁で店舗を増やしていった。現在は薬局経営の他、人材紹介なども手掛ける。

来が多い薬局だったので、当初から患者さんは多く来て下さいました。経営が行き詰まる薬局が多い中、恵まれていたと思います。本場に運や縁に恵まれていて、私は祖父のお墓参りの時に「力を貸してほしい」とお願いしているの、祖父が見守ってくれているのかなと思いますね。またもう1店舗の「クラレ薬局」については、私が新店舗として一から立ち上げたものです。

—— 順調なようです。社長のお人柄が様々なチャンス呼び寄せられるのでしょうか。現在は「メディクルーズ」さんの他にも法人を設立されているようですね。

はい。立ち上げたばかりの「ライジバートナイズシブス」ではコンサルティング業務や薬剤師の紹介、経営コンサルティング業務などを行っています。また「ライドクルーズ」では「いちご薬局」を運営しています。周りに別の薬局さんがあるという立地でのスタートでしたが、地域の医療を変えたいという思いで取って挑戦しました。—— ほう。どのように変えたいとお考えなのでしょうか。

地方都市は都会と比べて、知り合い同士の付き合いをとっても大切にする風潮があります。ですから、たとえば病院の目の前に新しい薬局ができて、知り合いがやっていた遠くの薬局まで足を運ぶといったケースが多々あるんですね。そうした結びつきは素晴らしいことですが、国が医療費削減をしたり大手さんの台頭で個人経営の薬局が減ったりと、業界全体が変わってきてい



ます。ですから前時代的なことに固執するのではなく、新しいことを受け入れて形を変えていくことも必要なんですね。今よりも良い形というのはあるはずだと思っているので、時代に合わせて変えていきたいんです。

—— なるほど、具体的には、どのような取り組みを考えていらっしゃいますか。

地域の薬剤師同士でチームを組みたいと考えています。薬剤師の数が足りていないのが現状ですから、たとえば急に休みが出て薬剤師がおらず困っている薬局に、人を送って助け合えるような仕組みを作りたいんです。ですから、古くからの薬局も新しい薬局も、知り合いであつてもそうでなくても、地域医療を支える薬剤師同士として力を合わせる必要がある。この先、先ほど申しました国の方針などでこの地域の薬局が減ったとして、「人が足りないし協力体制もない」と言われて慌てても、もう遅いんです。時代の流れに向き合い、先を考えながら動くことが大事だと思っています。

—— 地域のことを真剣に考えた、大変熱い思いが伝わってきます。社長のような方がいらっしゃれば、地域医療はさらに良い方向へと向かっていくことでしょうか。

薬剤師同士の付き合いもさらに深くなくて、患者さんにより良いサービスを提供できることにもつながると思っています。誰かが動かなければいつまでも変わりませんから、私が積極的に動いてより良くしていきたいです。

ロゴマークに込められた思い

▼代々漁業を営んできた厳しい家庭で育ったという楠田社長。家業を継ぐか迷ったあげく薬剤師として歩む決意を固めたが、育ててくれた両親への感謝や、家業への思いは現在の事業にも込められている。それは、会社のロゴマークを見れば明らかだ。

▼「メディクルーズ」のロゴマークは、家業の漁業になぞらえて「波」「いかり」「ロープ」で構成されている。従業員が一つの大きな波としてまとまるように、社長がいかりのような役割を果たしてつなぎ止める。そして、全員が仲間として1本のロープでつながって、離れずに付いてきてほしい——そんな思いが表現されているのだ。また社名には、「医療の世界で漁師をする」という社長の決意が込められているという。

▼社長は対談中、「この事業で成功して親孝行をしたい」と話した。社長ならその気持ちを糧にきっとさらなる高みへ成長していくはずだ。そして、その姿を見せることこそが、何よりの親孝行となるのだろう。

